

2015 年 5 月 7 日

報道各位 プレスリリース

一般財団法人 山本美香記念財団



第 2 回「山本美香記念国際ジャーナリスト賞」が決定

スペイン人フォトジャーナリスト Ricardo Garcia Vilanova(リカルド・ガルシア・ビラノバ)氏による、シリア内戦を取材した「CHILDHOOD UNDER SIEGE」をはじめとする、中東各地の紛争地を取り上げた一連の作品が受賞

～授賞式は 2015 年 5 月 26 日(火)、日本出版クラブにて開催～

一般財団法人山本美香記念財団は、2015 年 5 月 5 日の選考委員会において、第 2 回「山本美香記念国際ジャーナリスト賞」を表題の受賞者に贈呈することに決定しました。

<本年度の受賞者および対象作品>

Ricardo Garcia Vilanova(リカルド・ガルシア・ビラノバ)氏(43)/フリーランス・フォトジャーナリスト
シリア内戦を取材した「CHILDHOOD UNDER SIEGE」をはじめとする、中東各地の紛争地を取り上げた一連の作品とその活動

- ・ 正賞 : 記念楯
- ・ 副賞 : 賞金 50 万円
- ・ 選考委員 : 川上泰徳(ジャーナリスト、元朝日新聞中東総局長)、最相葉月(ノンフィクション・ライター)、関野吉晴(探検家、武蔵野美術大学教授)、野中章弘(アジアプレス・インターナショナル代表)、吉田敏浩(ジャーナリスト)

<選考委員講評>

「イスラム国」による日本人ジャーナリスト殺害により、日本においてもシリアやイラクにおける紛争が大きく取り上げられた。しかし、日本人殺害という「事件」は伝えられたものの、紛争や抑圧のもとに生きる人々の姿が知られる機会とはならなかった。

リカルド・ガルシア・ビラノバ氏は、2011 年のシリア内戦当初から現地に何度も足を運び、取材を続けた。その後、「イスラム国」によって約半年間にわたり拘束されるという経験をしながらも、解放後には中央アフリカやリビア、イラクなどの取材を経て、シリアのコバニ攻防戦でクルド人部隊に従軍し、自らを拘束した「イスラム国」と対峙する現場に向かう。

彼の写真は、その一枚一枚が砲弾の破片のように、見る者の胸に突き刺さる。人々の嘆き、まるで大人のような眼をした子どもたちの視線、腐敗した死体、廃墟の街。それらは戦争から遠い場所にいる我々に、同時代の同じ時間に戦渦にさらされて生きる人たちがいる、という現実を突き付けてくる。その圧倒的な作品の力と、過酷な体験を経ても再び現場に戻ってゆく強靱な精神力は、この賞に値する。

＜山本美香記念国際ジャーナリスト賞＞

2012 年 8 月 20 日、シリア取材中に凶弾に倒れたジャパンプレス所属のジャーナリスト・山本美香の遺志を継ぐべく創設。世界中で起こっている様々な紛争や抑圧、災害や貧困などの下で暮らす様々な人々の生きる姿を伝える優れた国際報道を担うジャーナリストの支援、育成を目的とする。

世界の不正義や不条理に対して何がどのように不正義で不条理であるのか、伝聞ではなく自分自身の目と耳でとらえ、世界中に発信しようとするタフな行動力。また、それらの国々や地域において、生死のはざまをそれでも懸命に生きていこうとする人びとの姿を深い共感をもって世界中に伝えようとするヒューマニスティックな視座。

本賞はその二つを併せ持つ国際報道をおこなったジャーナリストを選考の対象とし、受賞者には楯と賞金 50 万円を贈呈。

＜お問い合わせ＞

一般財団法人 山本美香記念財団

東京都杉並区荻窪 3-36-14

電話 : 03-6915-1346 E-Mail : office-a@mymf.or.jp